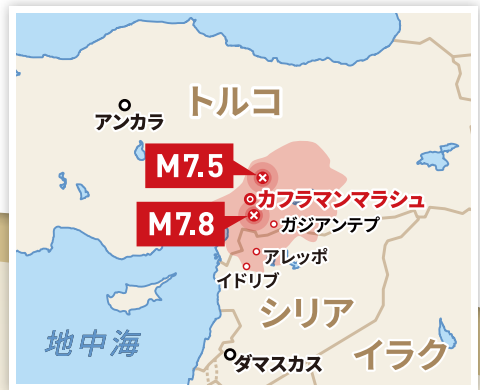


◆カフラマンマラシュ(トルコ南東部)地震

2023年2月6日、トルコ南東部のシリアとの国境付近で発生したマグニチュード(M)7.8の地震とその後も続いたマグニチュード7クラスの余震により、数十万の建物が損壊。トルコ、シリア両国合わせて約6万人が犠牲となる甚大な被害を受けた。



トルコ大地震、現地で緊急調査を実施 耐震性・断層・メカニズムなど幅広く

JSTは、2023年2月6日にトルコで発生したカフラマンマラシュ(トルコ南東部)地震について「国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID)」による支援を実施した。地盤の特性や断層活動、地下構造の可視化、公衆衛生、アーカイブなどについて幅広く、発災直後からトルコとの共同研究を行った。また、24年6月には最終ワークショップをトルコで開催した。採択された10課題の中から5課題について、現地での研究活動や成果、今後の展望を紹介する。

【J-RAPID】

<https://www.jst.go.jp/inter/program/j-rapid/j-rapid.html>



採択課題

	課題名	研究代表者
1 P.12~13	カフラマンマラシュ(トルコ南東部)地震関連のデジタルアーカイブ構築支援と活用	今村 文彦 東北大学 災害科学国際研究所 津波工学研究分野 教授
2 P.8~9	電磁気学的手法による2023年カフラマンマラシュ地震の震源域のイメージング	松島 政貴 東京科学大学 理学院 地球惑星科学系 講師(2024年4月から) 小川 康雄 東京科学大学 科学技術創成研究院 名誉教授(2024年3月まで)
3 P.10~11	「よりよい復興」に向けた公衆衛生保健システムのレジリエンス:スコアカードを用いた評価分析	加古 まゆみ 広島大学 大学院医系科学研究科 准教授
4 P.4~5	Kahramanmaras地震による地盤の震動・液化化特性に着目した被害メカニズムの解明	清田 隆 東京大学 生産技術研究所 基礎系部門 教授
5	トルコの建築物の耐震性能調査と改善に向けた課題整理に関する調査研究	楠 浩一 東京大学 地震研究所 災害科学系研究部門 教授
6 P.6~7	東アナトリア断層系で生じた2023年カフラマンマラシュ地震の長期予測の検証調査	近藤 久雄 産業技術総合研究所 地質調査総合センター 主任研究員
7	カフラマンマラシュ地震における企業及び工業団地(OIZ)の事業継続と経済復興	阪本 真由美 兵庫県立大学 減災復興政策研究科 教授
8	カフラマンマラシュ地震の学校・子どもへの影響および防災教育状況の調査	福島 洋 東北大学 災害科学国際研究所 陸域地震学・火山学研究分野 准教授
9	Kahramanmaras地震の強震域の地震動記録と構造物被害に基づく新たな震度計算式の開発および微動測定と揺れの質問票調査に基づく被害集中域の震度の解明	森 伸一郎 愛媛大学 理工学研究科 寄附講座教授
10	2023年カフラマンマラシュ地震の被災地域での臨時強震観測	山中 浩明 東京科学大学 環境・社会理工学院 教授